

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	武蔵野大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ムサシノダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	海外インターンシップ1
	学部・研究科等名	全学部・学科
	担当教職員名・役職	海外インターンシップ専門委員
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	21
	受入企業等数	10
	受入企業等名	※実習先/派遣業種の順で記載アメリカ:メディア/旅行/語学学校/広告カナダ:旅行マレーシア:旅行台湾:ホテルベトナム:旅行
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ生として、海外で実際の企業活動に4週間程度従事する。海外における就業体験および異文化での生活体験を通じ、国際的視野を獲得し、幅広い自己の展望を得ることを目的としている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2~3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	以下の各コースに対し、選抜条件を満たす学生を対象に面接を実施して派遣学生を決定する。(英語圏)主に英語を使用したインターンシップを行う<派遣条件>①TOEIC700点以上 ②総合GPA2.50以上(アジア圏)英語と中国語を併用したインターンシップを行う<派遣条件>①TOEIC550点以上あるいは中国語検定3級以上 ②総合GPA2.50以上
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	担当教員による「異文化コミュニケーション」、「海外ビジネスコミュニケーション実践」、「派遣国の文化・歴史」等、現地での実習に資する事前授業を実施している。また、実習先が決定後、説明会の中で海外インターンシップに対する心構え・目標・留意点・海外でのリスクなどについても理解を促している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習ノート(実習での目標(ゴール)、毎日の振り返り(①その日何をしたか②実習を通じて感じたこと③翌日へ向けた改善点)、現地受入先からの評価とコメントを記載してもらうシート)や振り返りシートを使い、担当教員との面談を通じて振り返りを実施している。また、「海外インターンシップで学んだ事」をテーマに、実習先毎にグループを組んで発表を行い、担当教員や企業担当者からの質疑応答、フィードバックをもらうことで総括している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	現地受入先からの日時の報告を通じ、担当教職員がフォローできる体制を取っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	担当教員との振り返り面談を通じ、教育効果の検証を実施している。実習中は、学生が毎日振り返りを行う事を課題としているため、学生自身でPDCAを回しながら成長を実感できる仕組みとなっている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している

要素⑤	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間約28日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	夏季休暇の期間を利用し、約4週間現地での実習を行う。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習先の評価(4段階(Excellent/Good/Fair/Poor))が学生の成績評価に反映される仕組みとしている。また、事後学習に企業担当者も参加して頂き、フィードバックをいただくことにしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	武蔵野大学
	担当部署名	学外学修推進センター事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	03-5530-7395
	メールアドレス	gakugai@musashino-u.ac.jp